



教授
大槻 剛巳

教育充填及び概要

社会医学系は、衛生学、公衆衛生学、予防医学、健康管理学、健康増進医学、中毒学、法医学、医用工学などの多くの分野を含んでいる。本学では2003年度までは衛生学や公衆衛生学という教室単位での授業を行っていたが、2004年度から保健医療・予防と健康管理・医用中毒という3つのブロック講義を実践し第3学年に授業をした。そして、2011年度からは「医学・医療と社会ユニット」として統合して再編し臨床の内容を終えた第4学年に講義を行うこととなった。しかし、学期制を以って構築されている本学のカリキュラム体制、あるいは国際認証評価などのための臨床実習の時間数の増大の要求なども相俟って、2014年度からは「環境社会医学ユニット」と「予防医学ユニット」に分割し、加えて2016年度からは「環境社会医学ユニット」を「法医学ユニット」と環境保健を中心とする新「環境社会医学ユニット」として再編した。

衛生学教室としては、「環境社会医学ユニット」の中で、食品保健・環境保健・産業保健・公衆衛生学としての感染症を担当するとともに、「法医学ユニット」で法医学・中毒学領域の講義を実践している。

「環境社会医学ユニット」では、学外施設の見学・実習も実践し、教員はその引率にあたっている。見学の内容は、地域保健、感染症対策、労働衛生、老人保健と福祉、健康増進対策や健康管理の現場などに加えて、ハンセン病療養所では入所者の方から、また大気汚染公害被害者支援から環境再生に向けて活動をされている公益財団法人では、公害の裁判において原告になられた被害者の方やその支援を長年務められた医師の講話を聴かせていただくことで、疾病を原因として社会的に弱者となられた方々の想いを伝えて頂き、共に学ぶ機会を設けるようにしている。

さらに法医学ユニットでは、岡山大学法医学分野のご協力を得て、岡山大学鹿田キャンパスの法医解剖室で行われる法医解剖を見学させていただいている。実際には、予めプランが出来ない解剖であるため、授業が並行して行われる1学期と夏季休暇の間を実施日とし、可能なかぎり円滑に見学が遂行されるように努力している。また講義については岡山大学・香川大学そして川崎医療福祉大学の先生方のご協力を以って、実践できている内容であり、本当に感謝に耐えない。

さて「環境社会医学ユニット」の見学・実習では、殆どの実習先において、予習等の自己評価、感想ならびに一人ひとりに異なったテーマが与えられるレポートを課している。感想とともに、レポートとして、与えられたテーマについて自らがその段階で知っていること、さらに文献やネット（ネット情報の真偽を見極めることも重要な鍛錬である）情報から、それらを咀嚼・消化した上で、自らの考察を加えて提出をさせている。またこれらの提出はWEBによる投稿としており、見学先には、WEBを介して学籍番号や氏名以外の提出物を閲覧していただく体制を構築している。一つのe-Learningのシステムの利用であり、学会その他の抄録提出などもWEBからの投稿になっている現在は、こういった経験もどこかで役立ってくれば嬉しいと感じている。

また「環境社会医学ユニット」の一部の授業はvideo on demand (VOD) を用いて、教科書を読み込み、試験範囲である知識の習得については、VOD授業をPCやタブレット、スマホなどでID/PWでアクセスした後にストリーミングで閲覧できるようにしており、試験直前まで学生はスマホで見ながら覚えるべきところを学習できるようにしている。さらに、生授業では、教室の研究に関連する話題を提供したり、2017年度から医用工学の分野から教室に参入された教員により広く社会

医学・応用医学としての講義を行っている。これらの研究姿勢を学生時代に触れてもらうことは、国家試験合格後の5年、10年先に専門医を取得していくことが重要な上に、さらにリサーチマインドを有した臨床医に、あるいは研究を主体とする医師としても活躍してもらえる萌芽を促すにあたって、まずは触れてみるということの重要性を提示できているのではないかと自負している。

さらに、我々の教室が担当する「環境社会医学ユニット」と「法医学ユニット」、ならびに社会医学系である「予防医学ユニット」では期末試験と補充試験についてe-Testingを実施している。特に第4学年ではCBTを受験することになっているが、CBTは主に5つの選択肢から択一あるいは択二の問題形式においてコンピューターで受験することになる。またe-Testingとして画像などの閲覧がモニター上で可能になることも利点であるが、その経験を学内試験ですることにも意義があろう。例えば、モニターをずっと見続ける試験の経験は、眼の疲労度などを体感することにも役立つのかも知れない。実際には、キーボード操作による記述形式の問題も出題は可能であるが、採点の公平性を高めるために、選択問題で対応している。勿論、CBTの場合には、プール問題から受験生によって決められた数の問題が提示されるのであるが、ユニット科目の試験においては、それによる学生間の差が生じてはいけないので、全問題は同じとしているが、ただし、出題の順番と掲示される選択肢の順番をランダムに設定することによって、隣に着席している学生と同じ問題が出たとしても選択肢の並び順も異なるような状況を構築できているし、またOAフィルターの設置によって、試験としての純度を高めるようにしている。

その他、教室の学問領域以外で、准教授の西村

が第1学年の教養選択科目リベラル・アーツ1の中で「ワンダーサイエンス」の主任を務めるとともに、第2学年の「ヒトの分子生物学」でも一部担当し、活躍している。

また医療経済学や医療情報管理学なども含めた社会医学系では、2017年度より「社会医学系専門医制度」を一般社団法人社会医学系専門医協会の管轄の下で開始した。川崎医科大学も「川崎医科大学川崎医科大学附属病院社会医学系専門医研修プログラム（2017年1月21日認定）」が認定され、専攻医を待ち望んでいる（勿論、卒後、初期研修を終えた段階であるが）。

○昨年度の自己点検・評価と課題：今習っていることにとらわれずに、将来を見据えた授業内容を心がけることで、滞りなく講義は実践できたかと思っており、またe-Learningにも積極的に取り組んでいることは、自ら評価している点である。

研究分野及び主要研究テーマ

環境免疫学として繊維・粒子状物質に免疫影響ならびに健康増進住環境について研究を行っている。

○昨年度の自己点検・評価と課題：論文および国内外学会発表さらに特許申請などの産学官連携や知的財産管理に関連するような業績、さらに研究費取得についても、ほぼ目標を達成している（例えば、教室研究職人数と同等の数の論文発表など）。今後、現状に満足すること無く、目標値を2割増しにしたいと考えている。

今年度の方策

教育についてはe-Learningを充実させる。また研究では、論文発表と知財に関連するような申請を増やしていく。